

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

作楽

日付 平成 20年 7月 29日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

このホームは、平成15年8月に設立され、まもなく丸5年経過する。異業種から認知症対応型のグループホームに参画した事業主としては先駆的立場である。今回で5回目の外部評価をさせてもらい、近年3回続けてホームをじっくり見せて貰った。最初の2回は外部評価報告書で過去を辿り、この5年間を振り返ってホームがどのように努力され、今日に至っているのかを見せていただいた。

代表者が、高齢者特に認知症高齢者に対する尊敬の念を持ち、入所した利用者の幸せを願い、良い職員の育成が自分の意を実現していく最大の資源だという考えが一貫して現在まで続いている事であろう。そして管理者と職員が着実に育ってきた事だろう。そして、代表者が津山で一番のホームになろうという目標を持ってきた事である。

代表者は法律や制度から運営に関する企画や手続き等を担い、ホームの理念や計画作成を担当し、管理者は代表者の意を汲み取り、職員と共にケアの専門職として、利用者や家族にサービス提供を責任持って行う。このように役割分担と遂行の責任を分かち合っている。最近では、管理者と職員で理念の具体的な行動計画も考え、実行している。

職員は資格取得やケアの実践とケアマネジメント全般について研修を重ね、一人ひとりの職員が自己研鑽に努め、認知症の理解に努めており、このホームに定着している。

2つのユニットがあるが、すべて全部の利用者と職員が一体化した行動をして、利用者同士、職員同士そして利用者と職員が仲良く生活出来、皆明るく生き生きとしている。

利用者の能力を尊重して、出来る事は自分で行う。そして出来る事をどんどん磨いていく機会を持って貰う。その一つが書道で、専門家がホームで指導して、立派な作品を作っている事である。他の技能や園芸、手芸等もある。

利用者と家族から信頼を得て、ホームで安心、満足な生活を送って貰う事である。入所した当時からこのホームで生活する事によって人間味が深まり、症状が改善され、精神面と身体状態共に『人間回復』を実現している事例がたくさんある。

運営推進会議は、行政・町内会長・民生委員・津山市家族の会代表・利用者家族代表・行政職員等、幅広い人が参加して、ホームの関係者と共に親密な関係を保ちながら開催しており、このホームが津山市の中で徐々に幅広く浸透していくであろう。このように5年間の足跡から着実にホームとしての力を付けていき、それ以上に楽しくて生き甲斐のある生活の場になるであろうと思う。

特に改善の余地があると思われる点

このホームの運営の仕方に、代表者を始め目標管理的要素を見る事が出来る。現在の介護福祉の考え方では、認知症ケアについてもマネジメントに限界があり、曖昧な事しか出来ないと思う。幸い工業的な立場で仕事をされている代表者でもあるので、これから、介護にもそちらのマネジメントの要素を取り入れてケアを考えていきませんか。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：運営理念に関する改善の必要はない。その理念を日常のホーム運営、及び利用者のケアに具体的に生かして行くために、何をすべきか、職員で話し合って目標を定めた。</p> <p>2、全体的に見て…：「居心地の良い、生き生きとした暮らしの出来るホームづくり」というケアの方針を決め、それを進めていく具体的な目標を作った。“お一人お一人のありのままを受け入れる”“手を出し過ぎず、目は離さない”“笑顔でゆとりを持って対応する”“相手の気持ちになってみる”“待たせず待つ”“自分たちがして欲しい介護を行う”の6つの目標を6つのりんごに模って木に生らし、2ヶ月に1回それぞれの目標がどの程度達成しているか利用者と職員で話し合い、青から赤色に変化で表現してみる。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：広い敷地の中にゆったりとしたスペースのあるホームを造っているので、ハード面で改善する必要はない。</p> <p>2、全体的に見て…：2つのユニットが平面に並んでおり、リビングルームで両方のユニットが繋がっている。利用者と職員は両方のユニットを行き交いして、毎日行う体操やリハビリ運動・ゲーム・歌を歌う等は、両方のユニットの人が片方のユニットのリビングルームに集まって、皆で仲良く過ごしている。書道の先生が来て習字の習作を作るが、これも同じように皆です。利用者が外出したり、ドライブやお花見をするのも一緒である。職員のミーティングも合同で行う。職員と利用者の生活動線が豊かな生活空間を形成している。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：介護計画や記録の様式や方式について、職員全員で考えて工夫して大変効果的で見易い計画や記録に変わった。大変分かり易いものになってきたので、現状において改善すべき点はない。</p> <p>2、全体的に見て…：入所前、脳外科に通院していた人は暴言や暴力が激しかった。ホームでは専門医の受診を家族に勧め、医師と相談して服用していた薬をやめていき、職員はその人の気持ちを受け入れ、ケアをした結果、安心した生活に馴染み、要介護度は改善し、家族も家で一緒に生活できると納得して在宅での生活に変わった。盗られ妄想の激しかった人の気持ちをしっかり聞き、散歩にも出かけることを続けることにより、すっかり落ち着いた生活ができるようになり、食欲も出て表情豊かになった。ホームに来て職員の暖かいケアによって「人間回復」した事例もたくさんある。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：家族ともコミュニケーションを良くして、希望や意見もよく聞いており、利用者のケアを含めて情報提供を良くしている。地域との関わりも運営推進会議にも幅広い人が出席して着実に開催を積み重ねているので、今後の係わりも期待できるので、現状を改善するところはない。</p> <p>2、全体的に見て…：代表者と管理者・職員の信頼関係はしっかり構築されており職員は定着して、利用者に対するケアやサービス提供も充実している。職員の資格取得を奨励しており、研修会への参加や事業者間での研修もすっかり機会をつくっており、管理者と職員間のコミュニケーションもしっかりしているので、職員は意を一つにして明るく笑顔で業務に携わり、利用者一人ひとりの気持ちの通い合った心で常に接している姿を見ると、心地良いホームの雰囲気につながる。</p>		